

世界経済・金融市場動向（日本）

先月の振り返り

01 日本株式市場

12月の日経平均株価は上昇しました。日本政府による子育て世代への臨時給付金が支給されたことや、FOMCの決定内容が市場想定範囲内であったことが好感されました。また、米国における金融正常化を背景に円安が進行したことなども株価上昇に寄与しました。

02 日本債券市場

12月の日本長期金利は上昇（価格は下落）しました。日銀金融政策決定会合は、コロナ対応について企業の規模で一部対応の違いがみられましたが、大枠に変更はありませんでした。リスクセンチメントが改善する中で株式市場が上昇したことにより債券金利の上昇につながりました。

経済金融環境

01 日本経済環境

日本の物価動向は、企業物価が前年比9%と高い水準で上昇しています。一方で、消費者物価（コア）は依然として低迷しており、価格転嫁が十分にできていない状況が確認できます。

日本の鉱工業生産は、供給制約が回復傾向にあることを背景に、自動車工業を中心として生産活動に持ち直しの動きが見られます。

今後の見通し

01 日本株式市場

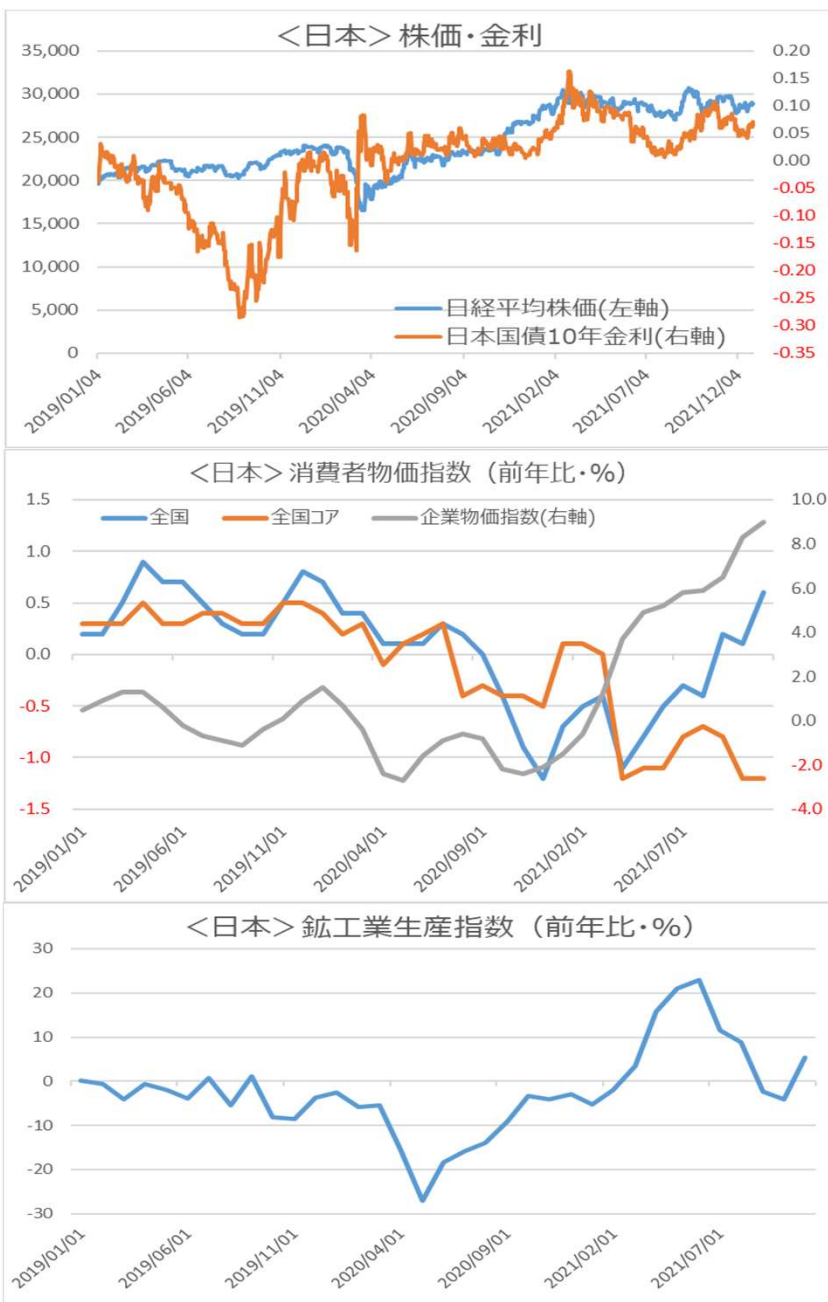
海外金融政策の正常化によるPER低下の圧力、企業物価上昇分の価格転嫁が進まないことによる企業業績への影響、オミクロン株の感染者数増加などにより戻りの鈍い展開を予想します。

一方、円安進行や供給制約の緩和などを背景に業績見通し改善の動きが見られれば買い優勢の展開となると考えます。

02 日本債券市場

米国を中心とした海外の金融緩和縮小への動きにより、海外金利が上昇することに連動し、緩やかに金利が上昇すると見込みます。

日銀の政策スタンス変更の観測や国内物価動向（特に4月以降は携帯電話通話料による物価押し下げ効果が剥落する見込み）にも注目が高まれば、変動性が上昇する場面もあると考えます。



(注) データ期間：2019/1/4～2021/12/30  
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

世界経済・金融市場動向（米国）

先月の振り返り

01 米国株式市場

12月のS&P500指数は上昇しました。FOMCの決定内容が想定内となったことやFDAが新型コロナ経口薬の使用許可を出したことがリスクセンチメントの改善に繋がりました。また、年末商戦が好調との報道を受けたことから下旬にかけて株価の騰勢を強めました。

02 米国債券市場

12月の米国長期金利は上昇（価格は下落）しました。FOMCでは3月にテーパリング終了および2022年末までに3回の利上げが示唆されましたが、市場の想定内であったことから影響は限定的となりました。一方でFOMC後は、FRBが良好な雇用環境の中で物価に対応していくとの見方が強まったことから金利は上昇しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

米国の消費者物価は、前年比6.8%上昇と高位で推移しており、FRBの金融政策対応および供給制約の動向と共に注視が必要です。米国の消費者センチメントは、インフレ圧力が強まっている中で貯蓄が減少していることやオミクロン株の拡大などを受けて低下傾向にあります。

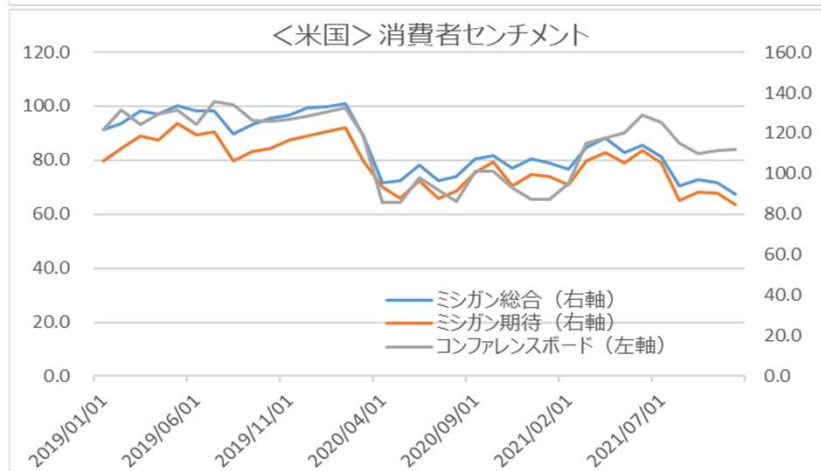
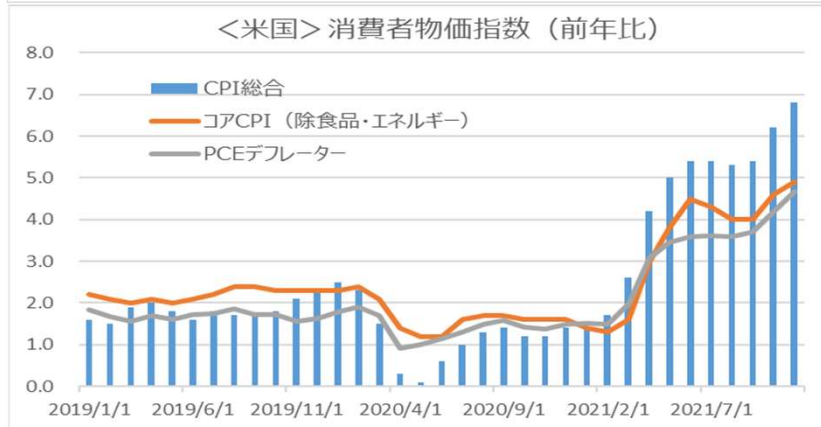
今後の見通し

01 米国株式市場

金融緩和縮小とインフレおよび景気の綱引きとなり、神経質な相場が続くと考えます。米国企業業績は順調に伸びておりますが、米国中央銀行のバランスシート縮小などFRB内における政策の不透明要因が高まれば市場とのコミュニケーション不一致により株価が調整する局面があると考えられます。

02 米国債券市場

労働市場の改善がみられる中では、物価に対応するためFRBのタカ派姿勢が続くことが見込みます。中間選挙を控えインフレが政治問題化しており市場がFRBの金融政策姿勢を織り込む過程で金利上昇圧力がかけやすいと考えます。インフレ動向、雇用情勢、コロナによる経済制限などに振らされる不安定な展開を予想します。



(注) データ期間：2019/1/4～2021/12/30  
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成